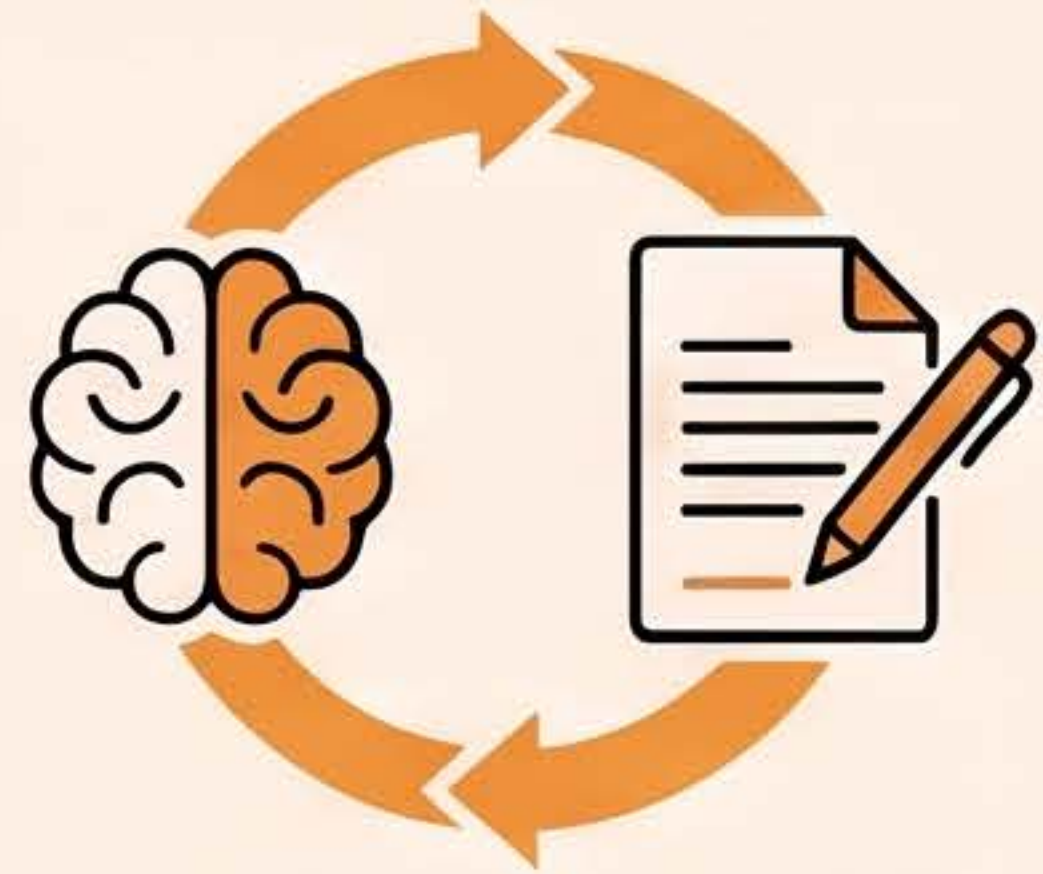


知財業務を変革するAI：欧米の「自律型」vs 日本の「支援型」

知財（IP）業務におけるAI活用は、検索補助から自律的に分析・生成を行う「エージェント型」へ進化しています。本インフォグラフィックでは、高度な自動化を実現する欧米ツールと、検索効率化に強みを持つ日本ツールの違いを対比させます。

欧米の「自律型エージェント」エコシステム



全ライフサイクルを
カバーする自律性

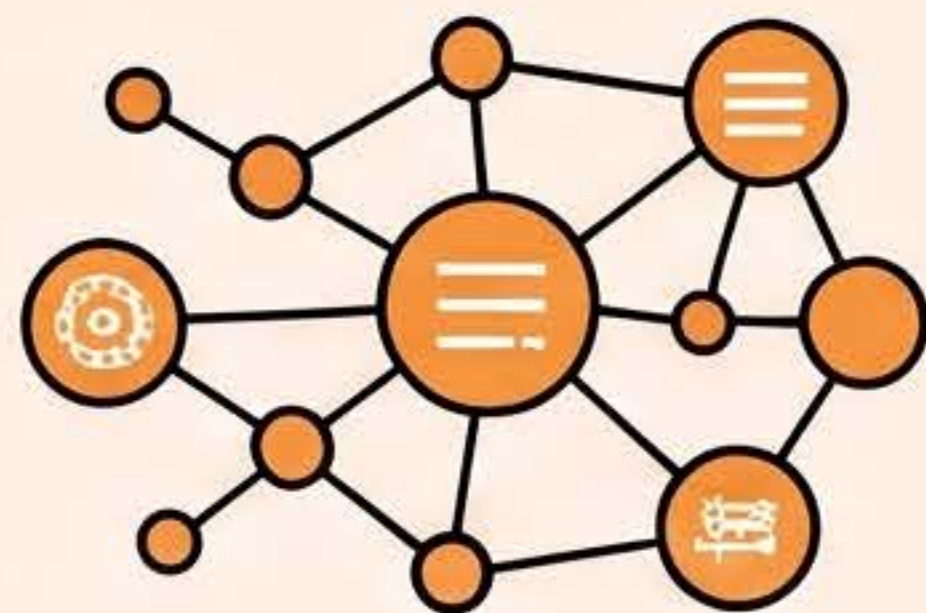
明細書作成から拒絶理由対応
まで、一連の業務をAIエー
ジェントが完結させます。

作業時間を最大

80%

作業時間を
最大削減

FTO調査やクレームチャート
生成の自動化により、劇的な
コスト削減を実現します。



ナレッジグラフによる
技術理解

単語一致ではなく技術構造をグラフ化し、
審査官に近い論理で先行技術を探索。

欧米プラットフォーム

日本プラットフォーム

主な役割

自律型
(エージェント)

支援型
(アシスト)

処理領域

自律型
(エージェント)

支援型
(アシスト)

処理領域

侵害検知・
反論書作成

先行技術
検索・分析

価格構造

高価格帯
(エンタープライズ)

低～中価格帯
(汎用・R&D)

日本の現状とグローバル比較



検索・分析に特化した
「支援型」

日本ではセマンティック検索や
パテントマップ可視化など、
検索効率化が主流です。



市場背景による
ビジネスモデルの差

代理人費用や訴訟リスクの差
が、ツールの自動化範囲と
価格帯に影響しています。



ハイブリッド型の
戦略的導入

欧米の自律型と国内の検索ツールを組み合わせ
たIP-DXの推進が鍵となります。